

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	2023年2月13日
【四半期会計期間】	第59期第3四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）
【会社名】	札幌臨床検査センター株式会社
【英訳名】	SAPPORO CLINICAL LABORATORY INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊達 忠應
【本店の所在の場所】	札幌市中央区北三条西十八丁目2番地2
【電話番号】	011(613)3210
【事務連絡者氏名】	総務部長 南 誠
【最寄りの連絡場所】	札幌市中央区北三条西十八丁目2番地2
【電話番号】	011(613)3210
【事務連絡者氏名】	総務部長 南 誠
【縦覧に供する場所】	株式会社 東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人 札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第58期 第3四半期連結 累計期間	第59期 第3四半期連結 累計期間	第58期
会計期間	自2021年 4月1日 至2021年 12月31日	自2022年 4月1日 至2022年 12月31日	自2021年 4月1日 至2022年 3月31日
売上高 (千円)	14,285,788	15,250,105	19,109,595
経常利益 (千円)	1,139,476	971,637	1,605,618
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	661,798	493,187	1,042,882
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	635,876	583,358	1,019,339
純資産額 (千円)	10,023,609	10,814,977	10,337,959
総資産額 (千円)	15,510,626	16,893,292	16,149,449
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	193.96	147.85	306.16
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	63.2	62.2	62.6

回次	第58期 第3四半期連結 会計期間	第59期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2021年 10月1日 至2021年 12月31日	自2022年 10月1日 至2022年 12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	59.83	70.53

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しておりますが、行動制限の解除以降、ウィズコロナの下で、徐々に経済活動が正常化に向かい、緩やかに持ち直しの動きがみられました。

一方で、長期化するロシアのウクライナ侵攻に起因する世界的な原油・原材料価格の上昇や、円安の進行等により個人消費が冷え込むなど、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

医療業界におきましては、医療費抑制政策等の社会的要請を背景に、引き続き後発医薬品の使用拡大及びセルフメディケーションに対する取り組み強化等の対応が求められるとともに、継続的な薬価改定の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、更なる経営努力が求められる厳しい事業環境となっております。

このような状況から、当社グループは、感染症の影響を踏まえた計画のもと、医療機関の多様化するニーズに応えた営業活動を展開し、継続的な企業価値の向上を実現すべく、各事業において新規顧客の獲得等による営業基盤の拡大と継続的な経費効率を重視した収益基盤の強化に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高15,250百万円（前年同期比6.8%増）、営業利益816百万円（同24.8%減）、経常利益971百万円（同14.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益493百万円（同25.5%減）と増収減益になりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

臨床検査事業

臨床検査事業におきましては、診療報酬の改定に加え、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける状況下において、PCR検査の診療報酬の引下げがありました。PCR検査の受託が増加したことに加え、前期に稼働した子会社2社の業績が順調に推移したことから、売上高6,411百万円（同15.8%増）と前年同期を上回りました。

利益面につきましては、前述のPCR検査の診療報酬の引下げに加え、PCR検査受託増による経費の増加及び人件費が増加したことから、セグメント利益532百万円（同28.2%減）と前年同期を下回りました。

調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、診療報酬の改定と薬価改定による薬価の引下げに加え、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける状況下において、薬局を1店舗閉鎖しましたが、前連結会計年度に開局した2店舗、当期開局した1店舗及びOTCの売上増により、売上高8,039百万円（同1.2%増）と前年同期を上回りました。

利益面につきましては、前述した前期開局した2店舗、当期開局した1店舗、並びに既存店舗の設備投資等により経費が増加したことから、セグメント利益600百万円（同6.5%減）と前年同期を下回りました。

医療機器販売・保守事業

医療機器販売・保守事業におきましては、福祉用具の貸与等が前年同期を上回ったことから、売上高726百万円（同0.3%増）となりましたが、利益は、セグメント損失7百万円（前年同期はセグメント利益11百万円）と前年同期を下回りました。

その他の事業

臨床検査システムのソフトウェア販売及び保守におきましては、売上高72百万円（前年同期比8.1%減）、セグメント利益49百万円（同9.9%減）になりました。

財政状態

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は8,113百万円となり、前連結会計年度末に比べ884百万円増加(前連結会計年度末比12.2%増)いたしました。これは主にその他が564百万円減少しましたが、現金及び預金が1,061百万円、商品が195百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が187百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は8,779百万円となり、前連結会計年度末に比べ140百万円減少(同1.6%減)いたしました。これは主に工具、器具及び備品(純額)が94百万円増加しましたが、建物及び構築物(純額)が142百万円、リース資産が62百万円、差入保証金が11百万円、投資その他の資産のその他が11百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、総資産は16,893百万円となり、前連結会計年度末に比べ743百万円増加(同4.6%増)いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は3,709百万円となり、前連結会計年度末に比べ427百万円増加(同13.0%増)いたしました。これは主に未払法人税等が184百万円、賞与引当金が89百万円それぞれ減少しましたが、支払手形及び買掛金が401百万円、未払金が98百万円、その他が217百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定負債は2,369百万円となり、前連結会計年度末に比べ160百万円減少(同6.3%減)いたしました。これは主に長期借入金が100百万円、リース債務が70百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は6,078百万円となり、前連結会計年度末に比べ266百万円増加(同4.6%増)いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は10,814百万円となり、前連結会計年度末に比べ477百万円増加(同4.6%増)いたしました。これは、剰余金の配当77百万円、自己株式の取得が29百万円それぞれ減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益493百万円、非支配株主に帰属する四半期純利益が85百万円によりそれぞれ増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は62.2%となり、前連結会計年度末比0.4ポイント下回りました。

また、1株当たり純資産は3,154円43銭となり、前連結会計年度末比138円19銭増加いたしました。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、6百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,216,000	4,216,000	東京証券取引所 スタンダード市場 札幌証券取引所	単元株式数 100株
計	4,216,000	4,216,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備 金増減額 (千円)	資本準備 金残高 (千円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	-	4,216,000	-	983,350	-	1,015,270

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 885,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,329,900	33,299	-
単元未満株式	普通株式 700	-	-
発行済株式総数	4,216,000	-	-
総株主の議決権	-	33,299	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式22株が含まれております。

【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
札幌臨床検査センター株式会社	札幌市中央区北3条西18丁目2番地2	885,400	-	885,400	21.00
計	-	885,400	-	885,400	21.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清明監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,990,653	4,051,755
受取手形、売掛金及び契約資産	3,023,730	3,211,051
商品及び製品	409,540	605,209
仕掛品	26,799	11,447
原材料及び貯蔵品	54,352	70,371
その他	753,319	188,684
貸倒引当金	28,751	24,642
流動資産合計	7,229,644	8,113,879
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,960,833	4,470,636
減価償却累計額	1,297,726	949,712
建物及び構築物(純額)	3,663,106	3,520,924
機械装置及び運搬具	27,089	24,659
減価償却累計額	22,030	21,240
機械装置及び運搬具(純額)	5,059	3,419
工具、器具及び備品	2,148,429	2,300,179
減価償却累計額	1,766,731	1,824,104
工具、器具及び備品(純額)	381,697	476,074
土地	3,429,506	3,429,506
リース資産	715,290	718,163
減価償却累計額	66,959	132,752
リース資産(純額)	648,331	585,411
建設仮勘定	-	1,048
有形固定資産合計	8,127,702	8,016,386
無形固定資産		
その他	60,128	56,070
無形固定資産合計	60,128	56,070
投資その他の資産		
投資有価証券	142,407	144,295
長期貸付金	7	-
長期前払費用	29,916	24,195
差入保証金	179,172	167,595
繰延税金資産	162,164	163,973
その他	235,146	223,738
貸倒引当金	16,841	16,841
投資その他の資産合計	731,974	706,956
固定資産合計	8,919,805	8,779,413
資産合計	16,149,449	16,893,292

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,258,565	2,660,258
1年内返済予定の長期借入金	133,692	135,367
リース債務	106,041	115,230
未払法人税等	294,056	109,389
賞与引当金	120,975	31,959
未払金	125,075	223,679
資産除去債務	28,000	-
その他	215,389	433,193
流動負債合計	3,281,795	3,709,078
固定負債		
長期借入金	1,732,321	1,632,052
リース債務	610,978	540,050
役員退職慰労引当金	66,870	67,104
退職給付に係る負債	16,107	17,654
長期末払金	97,363	91,890
その他	6,053	20,483
固定負債合計	2,529,694	2,369,236
負債合計	5,811,490	6,078,314
純資産の部		
株主資本		
資本金	983,350	983,350
資本剰余金	1,015,270	1,015,270
利益剰余金	8,812,690	9,228,753
自己株式	728,236	757,451
株主資本合計	10,083,073	10,469,921
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,227	36,164
その他の包括利益累計額合計	31,227	36,164
非支配株主持分	223,659	308,891
純資産合計	10,337,959	10,814,977
負債純資産合計	16,149,449	16,893,292

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	14,285,788	15,250,105
売上原価	9,558,379	10,426,960
売上総利益	4,727,408	4,823,144
販売費及び一般管理費	3,641,047	4,006,180
営業利益	1,086,360	816,964
営業外収益		
受取利息	179	132
受取配当金	5,482	5,082
受取賃貸料	33,592	30,659
助成金収入	50,435	146,072
その他	11,704	19,327
営業外収益合計	101,393	201,273
営業外費用		
支払利息	6,869	6,182
賃貸収入原価	37,107	33,385
その他	4,300	7,033
営業外費用合計	48,277	46,601
経常利益	1,139,476	971,637
特別利益		
固定資産売却益	133	18
特別利益合計	133	18
特別損失		
固定資産売却損	10,960	-
固定資産除却損	753	2,870
減損損失	28,552	78,137
本社移転費用	74,486	-
特別損失合計	114,753	81,007
税金等調整前四半期純利益	1,024,857	890,648
法人税等	364,707	312,227
四半期純利益	660,150	578,420
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	1,648	85,232
親会社株主に帰属する四半期純利益	661,798	493,187

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	660,150	578,420
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24,273	4,937
その他の包括利益合計	24,273	4,937
四半期包括利益	635,876	583,358
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	637,525	498,125
非支配株主に係る四半期包括利益	1,648	85,232

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計年度末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
支払手形	- 千円	28,036千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	388,739千円	382,825千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	78,735	23	2021年3月31日	2021年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間
末後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	77,125	23	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間
末後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	臨床検査 事業	調剤薬局 事業	医療機器 販売・保 守事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収 益	5,537,336	7,944,685	724,378	14,206,399	79,388	14,285,788
外部顧客への売上高	5,537,336	7,944,685	724,378	14,206,399	79,388	14,285,788
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	994,096	994,096	723	994,819
計	5,537,336	7,944,685	1,718,474	15,200,496	80,111	15,280,607
セグメント利益	741,257	642,074	11,575	1,394,908	54,549	1,449,458

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、臨床検査システムのソフトウェア販売及び保守による収入を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,394,908
「その他」の区分の利益	54,549
セグメント間取引消去	4,176
全社費用(注)	358,920
四半期連結損益計算書の営業利益	1,086,360

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門等管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	臨床検査 事業	調剤薬局 事業	医療機器 販売・保 守事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収 益	6,411,270	8,039,474	726,418	15,177,162	72,942	15,250,105
外部顧客への売上高	6,411,270	8,039,474	726,418	15,177,162	72,942	15,250,105
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	495,312	495,312	2,556	497,868
計	6,411,270	8,039,474	1,221,730	15,672,474	75,498	15,747,973
セグメント利益又は損失 ()	532,200	600,512	7,718	1,124,994	49,123	1,174,118

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、臨床検査システムのソフトウェア販売及び保守による収入を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	1,124,994
「その他」の区分の利益	49,123
セグメント間取引消去	7,149
全社費用（注）	364,303
四半期連結損益計算書の営業利益	816,964

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門等管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益	193円96銭	147円85銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	661,798	493,187
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	661,798	493,187
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,411	3,335

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月13日

札幌臨床検査センター株式会社

取締役会 御中

清明監査法人
北海道札幌市

指定社員
業務執行社員 公認会計士 岩間 昭

指定社員
業務執行社員 公認会計士 島貫 幸治

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている札幌臨床検査センター株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、札幌臨床検査センター株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 . X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。